全信協

「信金人養成講座」を開始

第一弾は課題発見・解決力

14年ぶりの新規開講

全国信用金庫協会（大前孝治会長）は、11月から信用金庫人養成講座の第一弾として通信講座「課題発見・解決力講座」を開始する。営業店経営戦略講座以来の14年ぶりの新規開講。既存の13講座と別建てにし、信金人としての志や能力を養成するのが狙い。さらに、14年5月までに第二弾と第三弾の講座も投入する。

養成講座で習得を目指すのが信金の理念を体現する中核的な能力「信金理念力」。信金職員に求められるコアスキルの一つと位置づけ、会員金融という特徴から導いた「課題発見・解決力」「顧客満足度力」「地域活性化力」から構成する力として定義した。

第一弾の「課題発見・解決力講座」は顧客の状態に適した解決手法を提案するため、顧客を「知る」ことを出発点としたのが特徴。「課題発見なくして課題解決の第一歩を踏み出せない」という。

テキストは3分冊。取引先企業の課題解決に向け、現場で使える「基本の型」を紹介したのが特徴。支店長や企業経営者との会話事例も掲載し、信金の課題解決型金融の面白さを表現している。

第一分冊の基礎知識編では先輩職員が頻繁に使う「型」を学び、第二分冊の実践知識編では架空の和菓子屋のケースをもとに実践的に解説した。第三分冊の事例演習編では食品製造業と建設業、自動車販売整備業の事例を掲載。ワークブック形式で財務分析やSWOT分析の設問を解きながら課題解決シナリオを描く訓練ができるようにした。添削問題は「型」の理解を重視し、記述式を採用した。

今後は第二弾と第三弾の開発も急ぐ。13年5月には顧客満足度力を磨く「まごころ力講座」、14年5月に地域活性化力を伸ばす「地域づくり力講座」を開講する予定。

「ニッポンの底力」でトップセミナー開く

全信協

全国信用金庫協会（大前孝治会長）は10月4～5日、9～10日、11～12日の3回にわたり、12年度「トップセミナー」を開いた。信金の会長や理事長を中心に合計363人が集まった。今回のテーマは「ニッポンの底力」とした。

参加者は各界の著名人や有識者の講演に聴き入った。主な講演者とテーマは、元花王会長の常盤文克氏が「日本のモノづくり再考／再興」、アサヒビール名誉顧問の中條高徳氏が「立志の経営」、金融庁の小野尚参事官が「地域密着型金融と信用金庫」など。

高齢社会へ対応

研修や資格取得を強化

のぞみ信組

【大阪】のぞみ信用組合（細谷善正理事長）は、高齢化社会に対応するため職員の接遇スキル向上を目的に、研修や資格取得を強化している。

高齢者への適切な接遇法を身につけるため、12年度から高齢者への対応に注力。「お年寄りに優しい地域金融機関として万全な体制を構築する」（塩見正人常務・人事部長）のが狙い。

同養成講座は、高齢化で増えつつある認知ムーズに対応できるように開催。各市町村の社会福祉協議会などに出前研修を依頼し、8月2日～9月14日まで

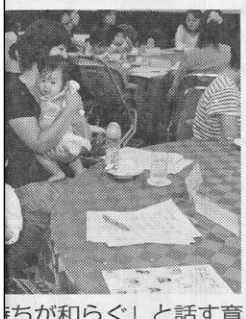
『安心して子育てを』

育児休暇者らと懇談会

職場の理解も促す

銀五百

○…安心して子育てをして下さい――。百五銀行は10月11、17日の両日、育児休暇制度の不安を解消し、安心して子育てに取り組み、スムーズな職場復帰ができるようにサポ



持ちが和らぐ」と話す育
11日、四日市市内）

職場がどうなっているかを知らせるため、銀行の現状や事業計画など子育ての悩みや仕事への不安など日頃の思いを話し、意見交換を行った。

○…参タル面が不安。他の取得者と話す場があると気持ちが和らぐ」や、「開催場所や回数を増やしてほしい」「職場に託児所があればうれしい」など、感謝とともに要望も聞かれた。

ミーティングを主催した人事部は「休暇中も

リーダー

第61期全信連議長

筧 政幸氏

〝気づき〟の魅力的

厳しい環境を背景に再編が進んでいる信託業界。10月に全国信託銀行従業員組合連合会の第61期議長に就いた筧政幸氏（三井住友信託銀行）は「組合員にとって魅力的な信託業界にしたい」と語る。

第61期はキャリア方などをテーマにし員向けのセミナーを針。「働きがいは自が気づくもの。ツーて活用してもらえる〝気づき〟の機会をたい」と強調する。

全信連と単組の役能も充実させたい考例給や臨給、総労働

窓口ロープレ大会

休日に400人参加

JAバンク山梨

JAバンク山梨（県内11農協・山梨県信用農業協同組合連合会）